

# 福島第一原子力発電所 1号機ウェルプラグ調査 スミア採取データ(α線放出核種)の記載箇所の一部訂正について

## 【概要】

- 本年（2019年）9月26日の「中長期ロードマップ進捗状況についての会見」でお知らせした「1号機原子炉建屋ガレキ撤去関連調査結果及び北側屋根鉄骨の切断開始について」において、「ウェルプラグ調査結果（スミア採取）」のデータのうち、α線放出核種の記載箇所に誤りが確認されました。
- スミア採取はプラグ内のポイントNo①～⑤の上段プラグ下面と中段プラグ上面、ポイントNo⑥,⑦のプラグ側面とウェル壁（12ポイント）において5種類の核種分析（12×5 = 計60データ）を行いました。このうち、ポイントNo②～⑤のα線放出核種について、上段プラグ下面と中段プラグ上面のデータに入れ違いがあり、結果8データに誤りがあることを確認しました。
- なお、当該データは、今後、ウェルプラグの処置方針を検討するために使用するもので、プラントの安全性や環境に影響を与えるものではありません。

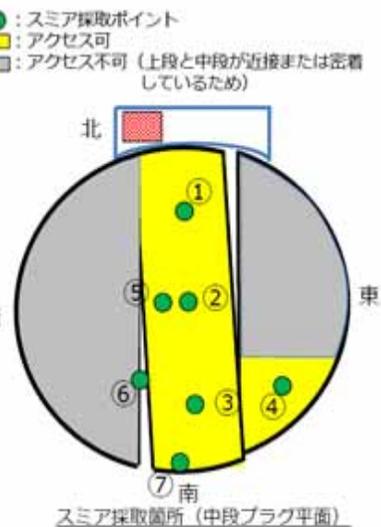
2019年9月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合資料  
 [1号機原子炉建屋ガレキ撤去関連調査結果 及び 北側屋根鉄骨の切断開始について(スライド6)]

### 3-3 ウェルプラグ調査結果（スミア採取）



- 調査用ロボットが中段プラグ上面を走行し、アクセス可能な範囲でスミア採取を実施。
- スミアサンプルの分析を行った結果、Cs-134, Cs-137, Co-60, Sb-125, α線放出核種が検出された。
- 線量率の測定結果と合わせ、ウェルプラグ処置の計画立案等に必要となる汚染密度分布を評価する予定。

No	測定箇所	分析結果 (Bq/cm <sup>2</sup> )				α線放出核種※1
		Cs-134	Cs-137	Co-60	Sb-125	
①	上段プラグ 北側下面	7.0E+3	1.0E+5	6.4E+1	4.8E+3	6.4E-1
	中段プラグ 北側上面	4.7E+3	6.9E+4	1.6E+1	8.4E+2	6.4E-1
②	上段プラグ 中央下面	1.1E+4	1.6E+5	5.5E+1	4.4E+3	6.4E-1
	中段プラグ 中央上面	※2	2E+6	< 8E+1	※2	1.1E+0
③	上段プラグ 南側下面	6.2E+3	9.2E+4	6.3E+1	5.7E+3	6.4E-1
	中段プラグ 南側上面	5.9E+3	8.7E+4	< 2.6E+1	7.2E+2	< 5.7E-1
④	上段プラグ 東側下面	1.3E+3	1.9E+4	2.7E+1	1.8E+3	< 5.7E-1
	中段プラグ 東側上面	1.3E+3	1.9E+4	4.8E+0	1.9E+2	8.5E-1
⑤	上段プラグ 中央下面	1.5E+4	2.2E+5	8.7E+1	6.7E+3	< 5.7E-1
	中段プラグ 中央上面	3.4E+3	5.3E+4	< 1.1E+1	< 3.2E+2	2.7E+0
⑥	中段プラグ 西側側面	※2	3E+6	< 1E+2	※2	6.6E+0
⑦	南側 ウェル壁	2.7E+3	3.9E+4	< 1.0E+1	9.2E+2	1.3E+0



※1: ZnSシンチレーションカウンタによる定量結果  
 ※2: Ge半導体スペクトロメータでは、線量が高すぎて過小評価(ゲットタム)となることから、別のスペクトル測定器(CZT)で計測。標準線源を所持している核種のみ定量した。

### 凡例

- : 誤りの範囲
- ↔: 上段プラグ下面と中段プラグ上面の数値を入れ違いに記載
- ↔: 入れ違いはあったが、数値が同一であった箇所

## 【参考】原因と再発防止対策等

### 【原因と再発防止対策】

- 入れ違いに記載した原因は、スミア採取時に使用した「測定記録用紙の様式」と、公表用の「資料の様式」との関係性が分かりにくかったことと推定しています。
- 再発防止対策として、「測定記録用紙」は紛らわしい様式を使用しないこととし、所内にも周知することで、今後、同様の入れ違いが発生しないよう努めてまいります。

### 【原因の図解(様式の分かりにくさについて)】

